学 位 記 番 号：　修士第４１号
氏名（本籍）：　西　山　ゆかり（京都府）
学 位 の 種 類：　修士（看護学）
学位授与年月日：　平成１５年３月２７日
学位論文題目：　臨床実習指導者の職業自我の発達過程に関する研究

論　文　内　容　要　旨

【研究の背景】看護基礎教育において、学生が専門的知識、技術、判断力を統合して高度な実践能力を身につけていく総合教育の場が臨地実習であり、その指導にあたる臨床実習指導者の看護教育者としての役割と責任は極めて大きい。しかし我が国では臨床実習指導者を組織的に育成するプログラムがほとんどないため、多くの臨床実習指導者は、教育方法や学生指導について必要な知識や技術を習得する機会をもたないまま臨床実習指導に携わり、戸惑いや不安等を経験しながら、いつのまにか看護教育者として独り立ちしているのが現状である。著者もこうした状況の中で臨床実習指導に携わった経験をもち、多くの臨床実習指導者はどのような経過を経て、どのように自己を訓練して看護教育者として成長していくのか疑問に思った。こうした疑問が明らかにされると臨床実習指導者養成のためのカリキュラム開発の有用な基礎資料となるのではないかと思われる。

【研究目的と方法】本研究では臨床実習指導者の職業人としての社会化の過程を、職業自我の発達の側面から明らかにするために、G.H.Meadの象徴相互作用理論を枠組みとして用い、25名の看護教員に半構成的面接を行って、22名から有効な質的データを得た。面接内容は、調査対象者の許可を得て録音し、逐語録に転記したうえでコード化し、ＫＪ法を用いて分析した。

【結果】分析内容から2761の意味項目が得られた。これらから63の下位カテゴリー、15の中位カテゴリー、６の上位カテゴリーが抽出された。６の上位カテゴリーは、１）初期の臨床実習指導者の特徴、２）行動の変化、３）思考の変化、４）リファレンスグループ、５）他者の態度の取り込み、６）職業自我の確立、であった。

【考察】G.H.Meadが言うように、初心者の臨床実習指導者は、職業自我の発達過程の第１段階では、身近なリファレンスグループとのシンボルのやり取りを

通して、リファレンスグループから送られたシンボルを自らの中に取り込み、行動の変化が起り、自立の前段階へと進み、臨床実習指導者としての役割が明確化されると考えられる。第２段階では、第１段階と同じ方法で、複数のリファレンスグループから送られたシンボルを自らの中に取り込みまとめ、有意味シンボル化することで臨床実習指導者として行動が明確化され、行動の変化が起こり、臨床実習指導者として自立した行動がとれると考えられる。更に、臨床実習指導に対する他者の態度を取り込み、自らの中に行動を意識化し、リファレンスグループとの関係において看護教育者としての職業自我確立のスタートラインに立つとされる。

【総括】１）臨床実習指導者の職業自我は、看護教育者として社会化される過程において第一段階、第二段階を経て形成される。２）職業自我が確立された段階では、臨床実習指導者は学生を指導する能力と学生の成長を支える心の成熟を備え看護教育者の組織に所属し、道具的役割としてリーダーシップがとれると同時に、組織の目標に向かって進み、表出的役割として自分と地域との繋がりを見つけて、地域との関係がとれる能力を身につけている。３）リファレンスグループは、職業自我の発達過程において看護教育者としての役割モデルであり、リファレンスグループと臨床実習指導者との関係はMentorとMenteeの関係と言える。